

*** 今日の健康（4月）***

< 麻疹風しん定期予防接種の接種率低下 >

麻疹は予防接種率が95%以下になると流行可能な状況になります。麻疹を予防するために、麻疹風しんワクチン（MR ワクチン）の定期予防接種が実施されており、1歳以上2歳未満で1回（Ⅰ期接種）、5歳以上7歳未満（小学校入学前の1年間）で1回（Ⅱ期接種）の計2回の接種が、定期予防接種として定められています。

これまで95%以上の高い接種率が得られていたⅠ期接種の接種率が、2021年度は日本全体で93.5%と低下してしまいました。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/hashika.html>

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、非常に強い伝染力を有します。

麻疹ウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、1,000人に1人の割合で重症化し脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も先進国であっても1,000人に1人と言われています。

治癒した後5-10年の経過で合併症として、10万人に1人程度と頻度は高くないものの、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）いわゆる中枢性神経疾患を発症することもあります。学童期に学業成績低下、記憶力低下、いつもと違った行動、感情不安定、体がビクッとなる発作、歩行障害、字が下手になったなどで気がつかれ、症状が進行し、最終的に寝たきりになる治療法のない病気です。

現在国内での麻疹発生は低く抑えられていますが、海外には麻疹の流行がコントロールできていない国があり、輸入感染症として国内に持ち込まれるリスクは常に存在しています。

麻疹に対する集団免疫を維持し、2015年以来続いている日本の麻疹排除状態を維持するためには、少なくともⅠ期接種の接種率を95%以上に保つ必要があります。

2021年度そして2022年度にⅠ期接種の対象となっている小児で、MRワクチン未接種の方は、かかりつけ医に相談の上、早めに接種を受けるようにしましょう。

またⅡ期接種は、長期間有効な免疫を確実につけるために必要ですので、こちらも未接種の方はかかりつけ医に相談し、早めに接種を受けるようにしてください。

Ⅱ期接種の接種率はこれまで95%に満たない状態が続いていますが、Ⅰ期接種と同じく95%以上の接種率を目指す必要があります。

武蔵野市の2021年4月1日～2022年3月31日接種率

Ⅰ期 東京都62市区町村中29位 94.3%

Ⅱ期 東京都62市区町村中50位 91.3%

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り もみじ山公園バス停裏

